

市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会記録
【 速 報 版 】

令和8年6月8日開会

速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横 浜 市 会

開会時刻 午前10時00分

◎ 開会宣告

- 鴨志田啓介委員長 これより委員会を開会いたします。

◎ 委員席の指定

- 鴨志田啓介委員長 委員席につきましては、名立てのとおり指定いたします。

白井(亮)	田野井	清水	小松	くしだ	宇佐美	大野
副委員長	委員	委員	委員	委員	委員	委員
鴨志田						
委員長						
越久田	尾崎	竹野内	麓	坂本	田中(ゆ)	
副委員長	委員	委員	委員	委員	委員	

◎ 正副委員長代表挨拶

- 鴨志田啓介委員長 このたび、市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会の委員長を拝命いたしました鴨志田啓介でございます。1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本委員会の付議事件は、誰もが居場所と役割を持ち、いきいきと生涯活躍できるまちづくりや地域コミュニティの活性化に関することです。

地域での課題に対する重要な議論を行っていく委員会であり、その責務の重大さを痛感いたしております。幸いにして、白井、越久田両副委員長に補佐していただくことになり、大変心強く思っております。

委員の皆様におかれましても、この1年、活発な御議論を重ねていただきますとともに、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

甚だ簡単ではございますが、正副委員長を代表しての私からの挨拶とさせていただきます。

1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◎ 各委員自己紹介

- 鴨志田啓介委員長 次に、各委員の自己紹介でございますが、既に皆様御承知の方ばかりだと思いますので、本日は省略いたします。

◎ 令和8年度の委員会運営方法について

- 鴨志田啓介委員長 それでは、議題に入ります。

令和8年度の委員会運営方法についてを議題に供します。

本日の委員会の進め方ですが、初めに配付いたしました資料に基づき、私から説明いたします。その後、今年度の本委員会で取り扱う調査・研究の内容について、皆様から御意見をいただきたいと思っております。

それでは、資料を御覧ください。

1の付議事件については、記載のとおりでございます。参考といたしまして、昨年度における本委員会の調査・研究テーマを記載しております。

次に、2の特別委員会運営方法については、市会運営委員会申合せ・確認事項を抜粋して記載しておりますので、御確認ください。

次に、3の令和8年度の調査・研究テーマ案については、事前に正副委員長で協議いたしましたので、私より簡単に説明をさせていただき、その後、委員の皆様から御意見等いただきたいと思っております。

下線を引かせていただいておりますが、今年度は、人生100年時代における新たな社会参加の在り方についてをテーマに調査・研究したいと考えております。

テーマ選定の理由でございますが、長寿化の進展による人生100年時代の到来に伴い、年齢を問わず、全ての市民が地域社会と関わり続け、いきいきと暮らすことのできる環境づくりが重要となっております。

特に、高齢者にとっては、その一人一人の希望や能力に応じた就労や身近な地域での活動等を通じ、積極的に社会へ参加することで孤立や孤独を防ぎ、さらには介護予防に取り組みながら、健康寿命を延伸させることが大変重要となっております。また、これまで培ってきた知識・経験を生かした地域を支える担い手として大いに期待されており、このような活動の積み重ねが活力のある地域の実現につながることであります。

そうしたことを実現するためには、自治会・町内会や消防団等の既存の地域活動に加え、健康づくりや趣味活動、eスポーツ等の新たな交流領域、デジタルを活用した参加手法など、多様で参加しやすい入りを整備し、高齢者が気軽に気軽に関わり始められる環境づくりが求められます。

こうした状況を踏まえ、多様なニーズに応じた参加機会の拡充や、段階的な関わりの仕組みづくりといった新たな社会参加の在り方について検討する必要があります。そこで、今年度はこのテーマ案に基づき、本市の取組の検証、他都市の取組の調査及び有識者からの意見聴取などを実施し、多方面に調査・研究を行いたいと考えております。

私からの説明は以上でございますが、ただいま申し上げましたテーマ案や委員会の進め方などについて、委員の皆様からの様々な御意見をいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。

- 麓理恵委員 テーマを選定していただきまして、ありがとうございます。昨年も、この委員会でいろいろと勉強させていただきました。

今回、人生100年時代というキーワードが1つありますけれども、この言葉って、やっぱり高齢化とか高齢者とともに語られることが多いかなと思うんですけれども、でも、この委員会で語るときにはやっぱり、人生100年時代は単に高齢者の社会参加とか生きがいづくりというものにとどまらずに、多世代が地域で役割を持って支え合うコミュニティづくりの視点というものが必要なのかなと思っております。

泉区で、中学生が参加するわくわく応援隊というボランティア組織があって、一部地域では中学生が積極的に参加をしています。そういうことで、若い世代の参加を促進することが、高齢者はもちろんですけども、現役世代の方とか子供たちが共に活躍できる社会の実現に寄与しているのかなと思っています。

だから、高齢者はもちろん、誰もが気軽に参加できて、その入りを増やすということ、段階的に活動へ関わっていけるよというテーマは、非常にこの委員会として考えていくのにふさわしいかなと思っておりますので、一緒にこの1年勉強させていただきたいと思っております。

- 鴨志田啓介委員長 ありがとうございます。

人生100年時代ということで、麓委員からは、多世代の参加が必要だということで御意見いただいたと思います。本委員会、特に今、高齢者に着目するというテーマでお話をさせていただいておりますけれども、本当にこの高齢者の活躍は地域コミュニティの活性化にもつながる、その地域に若手も参加していただく。いろんな世代が参加していただくことによって、我々の地域の未来というのが、この若い人たちにとっても想像しやすくなる。この高齢者が元気ならば、我々も元気で過ごせるだろうという、そうした未来も見られていけるのではないかなと思いますので、そのあたりも、高齢者、そこに着目して今回テーマで進めさせていただきたいと思います。お願いします。

- 田中ゆき委員 テーマの選定、ありがとうございます。すごく賛同しています。

私は、この新たな社会参加の在り方の新たなという部分がとても大切だと思っております、それこそ、ここに書いてあるように、自治会・町内会とか消防団等の既存の地域活動って、ある面、今御高齢者が急速に増えている中で、社会参加、そこにしているかという、していない方のほうが多いという中で、元気な方は結構都内に出ていたりとか、公共交通手段を使って趣味とか多様な活動できていますけれども、やっぱりこれ人生100年時代となってくると、それがかなわなくなってくる。そうやってきたときには、身近な地域で活動したい、活躍したいと思える、ある面、生きがいを感じる場が必要になってくると本当に思います。

そういったときに、ここにも書いてある、すごい難しいし、新しい見方だと思うんですけども、多様なニーズに応じるのはもう本当に多様なんですけども、段階的な関わりというのがすごい大切だと思っております、地域の御高齢者の方というか、そのシニア世代に聞いていると、やっぱり先ほどあったように多世代交流というのかな、高齢者の集まる場所には行きたくないという声もあったりとか、あとはもう自分自身は今まで趣味でもずっと活躍してきたから、その能力を生かして地域の方にそれを伝えていきたいという方々の、そういう思いを持っていらっしゃる方々が、今どこでそれをどうやって動いていいのか分からないとか、そういう方々がそれぞれ一つの段階的な中で、この方にはこういう能力があるから、子供たちにこういうのを教えてあげる場をつくるとか、そういったこれまでなかったある面、高齢者からのボトムアップみたいな地域社会のつくり方というのと一緒に考えさせていただければいいなと思って、このテーマはすごく今わくわくしていますので、御一緒によろしくお願いします。

以上です。

- 鴨志田啓介委員長 田中委員、ありがとうございます。

いろんな地域のコミュニティというのは、自治会とか消防団とか、既存の団体ばかり活性化しているところがあって、そこに入りづらいという御高齢の方もいらっしゃる、自分にはいろんなスキル、多様なスキルがあるんだけど、そこをどうやって生かせるかというところを、この政治、行政の面からいろいろ紹介していき、まさに入り口のところをテーマにしていきたいと思っておりますので、御意見ありがとうございます。

- くしだ久子委員 委員長、副委員長、どうもありがとうございます。

これ、非常に今の社会においては、ずっとここ何十年と言われてきたテーマでもあるわけですが、本当にいよいよ押し迫ってきている時代なんだということをいろんな場面で認識するわけですが、このテーマ選定理由のところにもいろいろ重要なことが書かれている中で、健康寿命を延ばすということは非常に大きな重要なテーマだと思っております。

今、医療も発達していますので、確かに寿命そのものも伸びているんですけども、いかに健康で動ける

時期を長く保つかということは、個々人においても大きなテーマでありますし、そうした場を提供していくということは、行政においても非常に重要な施策につながっていくのかなと思っておりまして、今年1年、多方面からの勉強をさせていただけたらなと思います。よろしくお願いいたします。

- 鴨志田啓介委員長　くしだ委員、御意見ありがとうございます。

健康寿命の延伸ということで、日本国の社会保障費というところの非常に課題になっているところであると思いますので、これを自治体というか、あるいは地域のコミュニティ、ここが基盤となって解決を何か模索していけるのかと思いますので、しっかりと皆様と御議論させていただきたいと思います。ありがとうございます。

- 宇佐美さやか委員　テーマの取りまとめ、ありがとうございます。

今、自治会の加入率が低いとか、自治会に加入していても、次の役員の成り手がないとか、うちの地元でも結構もめていたりとかする中で、やっぱり自治会・町内会に入ったときのメリットというのか、そういったこととか、入ることによって災害時とかにお互い助け合えるとか、お互い顔が見える関係をつくっておくことで、やっぱり円滑な自治会とか町内会が、そして地域ができるのではないかなと思っているということと、あと、自分らしく最後まで人生を全うできるような地域に住み続けられるということがやっぱり重要だと思うので、就労という形ではなくても、自分の能力を生かせる場がたくさん地域で近くであるということ本当に重要だなと皆さんの御意見を聞いていて思っていて、このテーマ、本当に重要だと思いますので、研究を一緒にさせていただければと思います。

- 鴨志田啓介委員長　御意見ありがとうございます。

自治会の加入が少なくなっているというところで、まさにいろんな入り口で、新たなコミュニティに所属をしていただいて、また自治会とも横でつながっていただいて、共に地域を支えていくという考え方が広がっていけばよろしいのかなと思いますので、ありがとうございます。

- 大野トモイ委員　テーマの選定をいただきまして、ありがとうございました。

私は、自分の議員活動の中で、全ての人に居場所と出番をとということを掲げていまして、ですのでこの付議事件、誰もが居場所と役割を持ち、いきいきと生涯活躍できるまちづくりや地域コミュニティの活性化に関することということについて、今年御一緒できること、大変ありがたく思っています。

私自身のいろんなこれまでの質疑を思い返すと、子供とか子育て世代のことに結構特化してきたなという感覚がありまして、そのことを思うときに、この人生100年時代における新たな社会参加の在り方というテーマを設定いただいたことは、地域における御高齢の方々のことにもう少し私自身も気を配っていくということについて、非常にありがたいなと思っています。

今日いろいろお話ありましたが、人ってある日いきなり9歳になっているわけではなくて、子育てに精いっぱい、仕事に精いっぱい、子育て終わって、仕事も引退して、あるとき社会で私独りぼっちだわということにならないように、先ほど田中委員からかなと思いますけれども、ありましたこの段階的な関わり、あと、様々な関わり方をしていくという選択肢を増やしていくということについても、しっかり研究をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

- 鴨志田啓介委員長　ありがとうございました。

他に御意見ございますでしょうか。

- 田野井一雄委員　まさに、私が生まれた頃は、私の兄弟は8人です。8人家族が要するに食べるものもな

い時代からよく覚えておりますが、昔は、向こう3軒両隣、袖すり合うも多少の縁とかいって、隣の晩御飯ではないけれども、地域が自然と一体となっていたと思うんですが、今、私も長い人生を歩む中で、どんなに時代が変わっても変えていいもの、変えてはいけないもの、そして守らなければいけないものがあるかと思えます。

この原案には賛成でございますが、いずれにしても、今時代は、私、子供の頃から、学生の頃から、子供たちを集めては三角ベースやったり、そういうことが大好きでして、実は子ども会の会長を半世紀やっています。今でもやっているんですが、自治会・町内会の加入率がどんどん下がってきて、例えば子ども会であり、スポーツ推進委員であり、役員が集まらないと。今、横浜市の子どもの会の副会長もしているのですが、子ども会を抜ける区が出てきました。共働きでとてもできないよと。例えば、北部のほうの人が会議は関内ホールでやっているんですね。出てくるだけでも大変ですから。

そんな意味合いの中で、私は子ども会でも市の子ども会、港南区の子ども会、連合の子ども会、単位子ども会と4回会合に出ているのですが、そこで子ども会は思い出づくりですから、様々なことをさせていただきます。マリノスの選手、OBのサッカーと食育のテーマで、日野の養護学校で300人ぐらいのお母さんを相手にいろいろ勉強会をやったんですが、やっぱり今食育も大事ではないですか、食育。いろいろと飛んでしまっって申し訳ないんですが、講師がいろんな話をした中で、まごにはやさしいかを食べなければ駄目だと。豆類、ゴマ類、魚類、野菜類、しはシイタケ類と。肉屋さんがいて、肉が入っていないと、そのとおりだ、まごにはやさしいかと。バランスなんですね、バランス。

そして、今の子供は水が飲めない子が20%いるそうですね。たまたまテレビ放送の中で、スポーツドリンクを飲んで寝る子がいるのですが、あれはいろんなものが入っていますから、そのままにしては虫歯の原因になると、こういうこともありました。

いろんなものが進むんですが、そういうことも踏まえると、こういうことも注意していかないと、私は平均寿命が大体男性が82歳近く、女性が87歳ぐらいまでになっていますが、いずれにしても、平均寿命が延びることはありがたいのですが、健康長寿を延ばすということが私は最大の懸案ではないかなと、いつもいつもそんなふうに思っております。

そして、人生100年時代、企業だって定年制を排除する企業が出てきました。それは60歳、70歳、働き盛りですよ。昔の年寄りとはびっくりすると思うんですが、私は常に前に前に向かって、今やるべきことをなす。同級生はみんな朝起きたら、夫婦でも仲悪くなっていますよ。こんな父ちゃんに弁当を作りたくないとかね、こんな父ちゃんじゃなかったねと。これは簡単に言えば、父ちゃんは戦地へ出て一生懸命働いて、帰ってきたら居場所がないみたいな、そういうこともよく言われますよ、意見が合わないと。奥さんのほうが地域活動やっていますから、上から目線になっちゃうと。そんなことも僕は現場主義で体験しているんですが。

そんなことも踏まえると、問題は町会の加入率がないから、役員を集めるにも集めようがない、消防団もそうです。警察官だって、職員だって、倍率がどんどん下がっているというこの社会背景をどう見るかというのは、この人生100年時代における新たな社会参加の在り方というのは、基本的なその原点をどう見直していくか、どう参入していただくかと、このことを考えていかないと、子ども食堂って一気にはやったんですが、そんなことも踏まえると、私は常に町の掃除、川の掃除も、子供たちと先生方と先週の土曜日も半日やりましたけれども、やはり率先して、元気なお年寄りって、私は毎月、階段は自分の足で歩くものと決めています。朝起きたらラジオ体操をやります、スクワットもやります。自分の健康は自分で守る、何でも医

療機関に頼るのではなくて、生活習慣を変えるということを、この委員会でも変えていくことが私は大事ではないかと思えます。怪奇な事件がいっぱいありますが、動物と共生を考える議員連盟としては、ペットが子供の数よりはるかに多いですね。だから、そういう意味合いの中で、やっぱり生きがいというのは、ペットと会話をしているような家族だってあろうかと思うんですが。

ちょっと長くなりましたけれども、いずれにしても、この町会の加入率が下がっている現状を考えたときに、それらをどういうふうに——皆さん、区民祭りやっていますね。港南区だけは子どもゆめワールドがあるんですよ。私たちはスケートに連れていったり、十種競技のナンバー5の選手を呼んで走り方教室をやっています。小学校では運動会を速い者順に走らせていますから。そういうこともやっていたり、スケート教室なんて、大概子供は転んでもけがしませんが、お母さんがひっくり返って救急車騒ぎと、こんなことも30年ぐらいやっています。慰霊塔があります。その慰霊堂掃除も30年以上やっていますが、そういう基本的なことを、参加するといのぼりもやっています。そうすると、ちょっと風体の悪い野郎が通ったと、そういう反応をするんだと見ていたら、あ、このぼりだと言って、屋根に高いこのぼりと言って歌って通ったんですね。じんと来ましたよ。どんなことがあっても、小さいときに、脳裏の片隅に少しでも焼きつくようなことをやってあげないと、春夏秋冬が今異常気象でなくなったかも分かりませんが、私は常にこのぼりをやったり、七夕飾りをしたり、清掃したり、そういうことを常に日常茶飯事としてやっていると、こういうことが私は重要なテーマではないかと思えます。

要するに、現場主義で、当たり前のことを当たり前でできることが、今挨拶一つできない時代になっているのではないかと私は思えますよ。そういうところからやはり考えたらいいのではないかなど。小学校、中学校も合併時代ですからね。まさに大学経営も今60%が定員割れと、こういうことになってきた時代ですから、100年に向かって、私もモデルになるような気持ちで、毎日を実践することが、やっぱり平均寿命も健康長寿にすると。皆さん、まごはやさしいか、まごにはやさしいか、最後のかはよくかむと。我々の仕事は次が待っているから、食事の仕方が早過ぎますよ。これはとんでもない、早いよと。かつて、菅さんと飯食うと、もう議事録ないだろうけれども。秘書が入ってきて、同じラーメンを食うなら冷やしそばをくわないと駄目だぞと。半分も食べないうちに、さあ行くぞになってしまいますから。そういうことで、私たちの仕事は何か早食い競争をやっているみたいなのですね。

そんなことも一つの、自分に置き換えて、おいしいもの、あまり酒飲み過ぎないほうがいいよとか、いろんなことがあろうかと思えますが、ちょっとテーマと離れましたけれども、今私が実感として思っていることを述べさせていただきます。

どうぞ1年間、よろしく御指導賜りますよう。

○ 鴨志田啓介委員長 田野井委員、ありがとうございました。

他に御意見はございますでしょうか。

○ 清水富雄委員 今、田野井委員のお話から、私、西区なんですけれども、西区の合い言葉は古きをたずね新しきを知る、温故知新なんです、もうずっと。去年、おとしと西区80周年の期間があって、いろいろなどころでは成り手不足、だけれども、いろいろ事業として冠をつけて、いろいろ登録してくださいと言ったら、100を超えるいろんな好きなことをやっているグループが参加してきてくれたという。やっぱりみんなどこかで動いているんですよ。

さっき、麓委員が小さい頃からボランティアというお話ありましたが、ジュニアボランティアとい

う名前、やっぱり我々日本人は奉仕の気持ちではないですか。そのことを我々、ここにいる皆さんがみんな地元で奉仕している、ボランティアしている皆さんばかりですから、ぜひ私も、今年71歳になりますけれども、もう高齢者。さっき田中委員が、もう高齢者のところには行きたくないという人がいると言っていたけれども、ぜひ高齢者のところに行きたくなるような。やっぱりおじいちゃんとおばあちゃんの話を生懸命聞いて、温故知新だと思うんですね。

ぜひ、そういうことで、この委員会を希望して、ぜひということで入れさせてもらいましたので、皆さん、よろしくお願いします。

以上です。ありがとうございました。

- **田野井一雄委員** だから、お年寄りとのボウリング大会とか、お年寄りは喜んで。それで今朝を食べるから元気なもので、地域ケアプラザで朝食をヘルスメイトさんに作ってもらう、指導してもらって子供たちに作らせるんですよ。そういうこともやっています。

地域でいろんなものがあるから、それを活用して、老壮と、それをワンチームにすること、そんなことばかり向いてしまっていますよ。そんなことです、すみません。

- **鴨志田啓介委員長** 清水委員、御意見ありがとうございました。
- **竹野内猛委員** 今、皆様から様々なお話をいただきましたけれども、本当にこの近年の様々な研究からも孤独はよくないと、本当に人との関わりが長寿とか健康をつくっていくものなんだというものは、もはや常識にも近いものになっていっていて、そのために地域の活動に参加しましょうとか、また災害への備えとか、そういった意味での地域力を強めていくためにも、一石二鳥ではないですけども、非常に大切な取組ではありますし、本当にそういうものに啓発されて参加する皆さんも着実に増えてきていますし、今回の委員会の一つの目的は、さらにその間口を広げてより参加しやすくということもあると思うんですけども。

一方で、やっぱりデジタル化も進んでいたり、人との関わり、リアルな関わりは嫌だという人も、これだけ人口がいる中では一定割合いて、じゃ、そういう方々は参加しなくてもいいよというのではなくて、私はむしろ、そういう方々も少しでもこのハードルを低くして、デジタルとかいろんな形がありますので、つながり方、そういった多様なつながり方、とにかく孤独になるのがいけないと思いますので、そうした本当に人とのリアルな関わりにハードルというか、高い壁、苦手感を持っているような方でも、何とか孤独にさせない、関わっていただけるよう、そういった意味での幅広い意味での社会参加ということも、せつかくの今年のテーマですので、ぜひ追求していきたいと思います。よろしくお願いします。

- **鴨志田啓介委員長** 竹野内委員、御意見ありがとうございました。
- **坂本勝司委員** 正副間でのテーマ選定、本当にありがとうございます。

人生100年時代ということなので、私もまだ6割程度ということで、しっかりと頑張っていきたいなと思うんですが、いきいきと暮らせる社会ということでいうと、田野井委員以上に私もいきいきとやらなければいけないのかなとも感じましたので、地域の中でもやっぱりいきいきさ、元気が、仲間からあふれ出るような、そういう取組をしていきたいなとも感じますので、しっかりと学んでいきたいなと思います。

私も、子供関係でいうとPTAに携わって、町内会にも携わって、消防団等にも携わっているのですが、やはり問題が、担い手がいないという点が非常に大きくて、さらに言うと今やられている方たちも、どうしても同じような方たちが活動されている、マンネリ化するようなところがありますので、どうやったら新たな担い手の方々が興味を持っていただけるか。まさに書かれているような、多様で参加しやすい入り口を整

備していくというところが非常に肝になってくるのかなとも思いますので、この1年間、委員の皆さんの御意見もしっかりと参考にさせていただきながら、自分の地域の中でこういった形で盛り込んでいければいいのかなというところも学んでいきたいなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

- 鴨志田啓介委員長 御意見ありがとうございます。

他に御意見はございますでしょうか。

(発言する者なし)

- 鴨志田啓介委員長 それでは、特に御意見もなさそうですので、今年度の調査・研究テーマは、人生100年時代における新たな社会参加の在り方についてということによろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- 鴨志田啓介委員長 異議ないものと認め、さよう決定いたします。

なお、運営方法につきまして、追加で御意見等がございましたら、正副委員長にお申出いただきたいと思ひます。

それでは、本件についてはこの程度にとどめます。

◇

◎ 委員派遣について

- 鴨志田啓介委員長 次に、委員派遣についてお諮りいたします。

委員派遣を行う必要が生じた場合、日時、視察箇所等の決定につきましては正副委員長に御一願ひたいと思ひますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- 鴨志田啓介委員長 異議ないものと認め、さよう決定いたします。

なお、委員の皆様も御希望がございましたら、正副委員長にお申出いただきたいと思ひます。

◇

◎ 閉会宣告

- 鴨志田啓介委員長 以上で本日の議題は全て終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。

閉会時刻 午前10時29分